

松尾秀雄教授定年退職記念号によせて

経済学部長 勝 浦 正 樹

松尾秀雄教授は、2025年3月末をもって定年を迎えられ、名城大学を退職されます。ここに名城大学、旧短期大学部、経済学部に対する松尾先生のご貢献に対して、心より感謝の意を表する次第です。

松尾先生は、1976年に東京大学経済学部をご卒業の後、東京大学大学院経済学研究科を経て、1983年に名城大学短期大学部に講師として着任されました。その後、1992年に教授に昇任され、2000年の経済学部の誕生とともに経済学部教授に就任されました。短期大学部から経済学部へと学内での所属は変わりましたが、どのような環境においても一貫して教育・研究等、大学教員としての役割に全力を傾けてこられました。

学部教育においては、経済理論、商業経済論、基礎ゼミナール、専門ゼミナールなどの科目を担当されました。特に、ご自分で執筆された教科書を活用して経済学の基礎をわかりやすく学生に伝えるなど、経済学教育にご尽力いただきました。また、大学院経済学研究科においては、経済理論研究などの科目を担当されるとともに、修士課程および博士後期課程の大学院生を指導教員として教育され、4名の博士（経済学）を輩出するなど、研究者の育成にも貢献されました。その指導方法は、学生の問題意識を最大限に生かし、個人の自主性を重んじながらも、理論・歴史・実証の視点を踏まえて常に現実の経済を意識させるもので、その成果は、指導した学生によって提出された質の高い学位論文に表れております。

研究に関しては、3冊の単著の書籍を含む多くの著書・論文を公表されました。流通、共同体と市場などをテーマに精緻な理論的研究を行うに留まらず、中国経済に関する研究成果も公表されるなど、多岐に亘る課題に精力的に取り組んでこられました。短期大学部時代には、ドイツのハイデルベルク大学社会学研究所において客員研究員として在外研究を行い、その国際的な経験はご自身の研究や学生の指導にも反映されております。

学会活動に関しても、日本流通学会において役員を歴任された上で会長に就任されるなど、積極的に関与されております。また、大学入試センター試験の問題作成に携わるなど学内にとどまらず、広く社会に貢献する活動を行ってこられました。学内では、経済学科長を歴任されるとともに、経済学研究科で主任教授を務めるなど、学部・研究科の運営に重要な役割を果たされました。さらに、学生委員、将来構想委員、予算編成委員、諸委員選考委員、学術研究審議委員等々の多様な役割も担ってこられました。

ここに定年退職記念号を刊行し、松尾先生の名城大学での研究・教育・学部運営・学内行政に対するご苦勞とご功績に、心から感謝の意をもって捧げたいと思います。今後ともご健康に留意され、ますますご活躍されることを祈念して、定年退職記念号によせる言葉といたします。